

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

| | |
|----|----|
| 別添 | なし |
|----|----|

| | | | | |
|------|----------------------|------------|--------|--------|
| 応募概要 | 分野 | 伝統芸能 | 種目 | 歌舞伎・能楽 |
| | 応募区分 | 一般区分 | | |
| | 複数応募の有無 | 有 | 応募総企画数 | 2企画 |
| | 複数の企画が採択された場合の実施体制 ※ | 複数の企画を実施可能 | | |

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要

| | | | | |
|----------------------------|---|----------|---|-------------------------|
| ふりがな | こうふうかい | | | |
| 制作団体名 | 阜風会 | | | |
| 代表者職・氏名 | 代表・小島英明 | | 団体ウェブサイトURL | |
| | | | http://www.koufuukai.net/ | |
| 制作団体所在地 | 〒 | 164-0003 | 最寄駅(バス停) | 東京メトロ 落合駅 |
| | 東京都中野区東中野4-16-19 | | | |
| 制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック | <input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です | | | |
| ふりがな | | | | |
| 公演団体名 | | | | |
| 代表者職・氏名 | | | 団体ウェブサイトURL | |
| | | | | |
| 公演団体所在地 | 〒 | | 最寄駅(バス停) | |
| | | | | |
| 制作団体 設立年月 | 大正8年 9月 | | | |
| 制作団体組織 | 役職員 | | 団体構成員及び加入条件等 | |
| | ・代表:小島英明 ・副代表:栗原幸江(幹事) ・会計監査:小倉親子(公認会計士) ・事務局長:小島 清(観世流門下) | | (1)団体構成員 役員8名の他、企画制作1名、会員83名、計92名。芸術団体数4 (2)加入の条件 観世流(能楽)宗家より免状を許された取得者。コーディネーター等。 | |
| 事務体制 事務(制作)専任担当者の有無 | 事務(制作)専任の担当者を置く | | 本事業担当者名 | 尾藤文隆(税理士) 小島美樹(経理担当) |
| 経理処理等の 監査担当の有無 | 有 | | 経理担当者 | 小島美樹 |
| 本応募にかかる連絡先 | メールアドレス | | 電話番号 | |
| | koufuukai@office.email.ne.jp | | 0363832262 | |

| | | |
|---------|-----------------|--|
| 制作団体の実績 | 制作団体沿革・主な受賞歴 | <p>設立100年。「継続は力なり」能楽の普及・振興に尽したい。</p> <p>当会は1919(大正8)年、能楽師観世流シテ方の小島曙光(現代表・能楽師観世流シテ方・小島英明の祖父)が設立。その後能楽師観世流シテ方の小島芳雄(現代表の伯父)に引き継がれ、2000年、小島英明が受け継ぎ、代表となって今に至る。東京を中心に全国各地で本格的な演能、蠟燭能、薪能を企画実施する一方で解説付能公演やワークショップ等の初心者向けの講座も積極的に企画、開催している。また日本各地で能楽愛好者の指導も長年行い、「文化活動で大切なのは、ささやかでも小さなことでも、弛まらずに継続していくこと」として能楽の普及・発展に力を尽くしてきた。特に文化庁の委託事業としては、九州国立博物館(大宰府市)にて、能楽ワークショップを無料で開催。中野区と白石市(宮城県)で「伝統文化こども教室・能楽」を実施し本年度で24年目となる。「伝統音楽普及促進支援事業・先生方のための能楽講座」(7ヶ年継続)を東京と宮城の2か所で実施。「舞台芸術等総合支援事業」他、学校巡回公演事業は11年という多年にわたり実施。2022年度補正予算事業・子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業等も実施し、それぞれの事業内容も精査と工夫を重ねてきた。2010年には「小島能舞台」が完成。阜風会の活動の本拠地として「能楽」の講座はもちろんの事、伝統文化の発信地とするため、新たな活動を企画運営している。2014年には当会代表小島英明が重要無形文化財総合指定保持者の認定を受ける。2019年に設立100周年を迎えた。2021年、文化庁アートキャラバン事業において「日本全国能楽キャラバンIN宮城」(宮城県白石市碧水園能楽堂)での観世流公演の企画制作を担当し実施した。</p> |
| | 学校等における公演実績 | <p>子ども達の心に「能楽」の種をまく。能楽を知る。観る。解る。</p> <p>当会の代表である小島は、芸団協主催「伝統芸能に触れる授業プログラム」や日本財団助成事業「中・高校生のための能・狂言鑑賞教室」、東京未来塾(東京都教育委員会主催)、「文化庁伝統音楽普及促進支援事業」の各講師を勤める経験を通じ、学校において児童・学生を対象とした伝統芸能や音楽を鑑賞し実際に触れる機会をつくる事、能の鑑賞者育成の重要性を感じ、当会の活動課題の一つと位置付け活動してきた。「能」を解りやすく、興味を持ってもらうように、且つ「本物の伝統が持つ力」をきちんと伝える事を大切にしてきた。テキストや動画も活用し、公演としての内容に細部にわたる工夫を重ね内容の充実に努めている。宮城県白石市白石中学校では、毎年ワークショップを無料にて実施(2023年再開)。一方で教員研修などの講師も各所で勤め、多角度からアプローチしている。</p> <p>【公演実施校例】・2017年10月 「羽衣」 都立科学技術高校にて解説及び公演実施。 ・2019年4月 「羽衣」 私立 横浜女学院高等学校にて解説及び公演を実施。 ・2019年11月 「羽衣」 横浜市立緑が丘高校にて解説及び公演「羽衣」を上演</p> <p>※2023年2月・2024年5月・2025年3月 「羽衣」 玉川大学にてワークショップを開催。</p> |
| | 特別支援学校等における公演実績 | <p>学校側の要望をしっかりと聞き、子供たちに寄り添う内容に。</p> <p>・2007年8月 佐賀県立金立特別支援学校にてワークショップを無料にて実施。 ・2019年10月 東京都立町田の丘学園(特別支援学校)にてワークショップを実施。 ※2020年、2021年も予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止。</p> |

| | | | |
|------|------------------------|-----|--|
| 参考資料 | 申請する演目のWEB公開資料 | 有 | |
| | ※公開資料有の場合URL | | |
| | ※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード | ID: | |
| | | PW: | |

| | |
|----|----|
| 別添 | なし |
|----|----|

【公演団体名 卓風会 】

| | | | | | |
|--------------|-------------------------------|---|-----------|---------------------|---|
| 本公演・ワークショップの | 対象 | 小学生(低学年) | ○ | 小学生(中学年) | ○ |
| | | 小学生(高学年) | ○ | 中学生 | ○ |
| | 企画名 | 「能と狂言」2つの面白さを体験！ 半能「土蜘蛛」と狂言「盆山」 | | | |
| | 企画のねらい | ■「能楽は難しいか？能楽は眠いか？」→「そうではない。」ことを、能楽の面白さを、様々なアプローチで分かりやすく伝える。「能楽」とは、「能と狂言」の趣の異なる2つの芸能を楽しむ総合芸術。「日本はすごい！能楽もすごい！」と感じて欲しい。 「能楽」は固い雰囲気、難しいと思われてしまうの現状だ。実は、能楽ほど知れば知るほど面白くなる芸能は比類ないことを全力で伝えたい。「能」だけでもない、「狂言」だけでもない趣の異なる2つの芸能のこと両方を楽しんでこそ伝わる「本質」がある、日本が誇る総合芸術です。「日本の美」の結晶であるその理由を解りやすく様々な角度から子供たちに伝えたい。 | | | |
| | 演目概要・演目選択理由 | ■能のダイナミックな演出と狂言の面白さ。「能楽」の魅力を伝える。 狂言「盆山(ぼんさん)」:盗みをした者が主人に見つかってしまう。隠れた盗人は犬や猿の鳴きまねをしてみますが、主人に「鯛の鳴き声は？」と聞かれ困ってしまう。犬の「ビョウビョウ」、猿「キヤーキヤー」鳴き真似やバントマイム的な動きなど見どころが明瞭。「滑稽性」という狂言の特徴的な要素を解りやすく表現した曲。子供たちの記憶に残る演目と考えた。 能「土蜘蛛(つちぐも)」:病床に伏せる源頼光の元に、僧侶の姿に化身した土蜘蛛の精が現れ襲いかかる。頼光は応戦し、傷を負った土蜘蛛は退散。頼光は家来に土蜘蛛退治を命じる。主題が「妖怪退治」と解りやすく「初めて観る能」として最適。 | | | |
| | 児童・生徒の参加または体験の形態 | ■事前ワークショップは「能の体験」+本公演当日のワークショップは「狂言の体験」。 ・狂言独自の発声を体験(生徒全員)。※犬や猿や鷹など動物の鳴真似(鑑賞演目「盆山」より)や「泣き」「笑い」「擬音」等 ・狂言の構え(姿勢)と運び(摺り足)としぐさを体験(代表生徒)。 ・代表生徒10名に舞台上上がって頂き(狂言方)と共演。 ※舞台上上がる緊張と高揚感を体感。「舞台からの眺め」などの実際に舞台上がった感想をインタビュー。 ※事前ワークショップ「能の体験」の内容は「NO.3」に記載しております。 | | | |
| | 児童・生徒の参加可能人数 | 本公演 | 参加・体験人数目安 | 参加生徒全員。(代表生徒の体験有) | |
| | | | 鑑賞人数目安 | 入場可可能人数(過去最大は1000人) | |
| | 本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付 | ■「狂言+能」2つの異なる芸術表現を「知る(解説)×観る(鑑賞)×体験する」本公演。 【第1部】本日のみどころ解説(当日プログラムに沿って解りやすく) ①ご挨拶 ②能楽鑑賞のマナーと本日の演目(狂言「盆山」と能「土蜘蛛」)についてのお話 【第2部】狂言・能の上演 ①狂言「盆山(ぼんさん)」 ②能「土蜘蛛(つちぐも)」 ※新しい試みとしてプロジェクターとスクリーンにて舞台進行に合わせて各場面に対応したマンガを投影し、児童の鑑賞の一助とする。(字幕ではなくマンガにすることで、低学年の理解向上を目指す) 【第3部】狂言を体験しよう！ ①ご挨拶 ②「狂言」とは？《狂言の基礎的なお話》 ③狂言独自の発声を体験(「動物の鳴真似」)や「泣き」「笑い」「擬音」など、構え(姿勢・すり足)を体験(生徒全員)。 【第4部】能面と能楽堂ののペーパークラフト体験 【第5部】アフタートーク及び質問コーナーとご挨拶 | | | |
| | | 公演時間 | 100 | 分 | |

| | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|---|-------------|------|-------------|------|-------|-------------|--------|
| 内容 | 出演者 | ※能楽界の中核を成す重要無形文化財総合指定保持者を中心に編成。 【出演者】18名(公社)能楽協会会員の能楽師(シテ方・ワキ方・囃子方・狂言方) ■事前講座「能」ワークショップ及び公演当日の解説《1名》 【シテ方】(観世流) 小島英明(重要無形文化財総合指定保持者) ■本公演当日の「狂言」ワークショップ及び狂言「盆山」の出演予定者《計3名》 【狂言方】(大藏流) 善竹大二郎、大藏教義、榎本 元他。 (和泉流) 深田博治、高野和憲、岡 聡史、内藤 連、中村修一、能村晶人他。 →【出演者の都合により左記より、計3名】 ■半能「土蜘蛛」の出演予定者《シテ方8名・ワキ方3名・囃子方4名 計15名》 【シテ方】(観世流) 小島英明、観世喜正、弘田裕一、駒瀬直也、中所宜夫、遠藤和久、奥川恒治、遠藤喜久、鈴木啓吾、永島 充、佐久間二郎、長山耕三、坂真太郎、桑田貴志、山中遼基、馬野正基、長山桂三、谷本健吾、他 →【出演者の都合により上記より、計8名】 【ワキ方】(下掛宝生流) 宝生常三、宝生欣哉、梅村昌功、大日方寛、則久英志、舘田善博、野口能弘、野口琢弘他 →【出演者の都合により上記より、計3名】 【囃子方】(笛方) 松田弘之、一噌隆之、八反田智子、栗林祐輔、小野寺竜一、藤田貴寛 他 (小鼓方) 飯田清一、幸 正昭、鶴澤洋太郎、田邊恭資、飯富孔明 他 (大鼓方) 安福光雄、柿原弘和、柿原光博、亀井広忠、原岡一之、佃良太郎 他 (太鼓方) 桜井 均、吉谷 潔、梶谷英樹、小寺真佐人、大川典良、林雄一郎他 →【出演者の都合により上記より、計4名】 【スタッフ】5名(会場入りは4名) ■舞台設営スタッフ《2名》 ■出演者補助・調整・連絡:小島美樹(※能楽についての専門知識を有する)《1名》 ■運搬車ドライバー※人件費は運搬費に含まれる。《1名》 ■企画・監修:古藤美紀(伝統文化コーディネーター・※資格及び専門の知識を有する)《1名》 | | | | | | | |
| | 演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名 | ■小島英明:能楽師【シテ方・観世流】重要無形文化財総合指定保持者。観世喜之に師事。国内外の公演の他、能楽普及のための公演・講座を多数企画実施。玉川大学客員教授。阜風会代表。日本能楽会会員。 ■宝生常三(森常好改め):能楽師【ワキ方・下掛宝生流】重要無形文化財総合指定保持者。祖父・宝生新(故十世下掛宝生流宗家)の孫。父・故森茂好(人間国宝)に師事。ワキ方の重鎮として、多くの舞台勤める。を1998年 芸術選奨文部大臣新賞。「花の会」主宰。日本能楽会会員。 ■亀井広忠:能楽師【大鼓方・葛野流大鼓方十五世家元】重要無形文化財総合指定保持者。父・故亀井忠雄(人間国宝)に師事。故・八世観世鍔之亟に師事。新作能や復曲能を多数作調。伝統文化ボーラ賞優秀賞、第45回観世寿夫記念法政大学能楽賞他多数受賞。日本能楽会会員。 | | | | | | | |
| | 本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む | 出演者: | 18 | 名 | 運搬 | 積載量: | 1.25 | t | |
| | | スタッフ: | 4 | 名 | | 車 長: | 4.965 | m | |
| | 合 計: | 22 | 名 | 台 数: | | 1 | 台 | | |
| | 本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール)の目安 | 前日仕込 | | 無 | 前日仕込所要時間 | | 時間程度 | | |
| | | 到着 | 仕込 | | 上演 | 内休憩 | | 撤去 | 退出 |
| | | 11時30分 | 11:30～13:00 | | 13:00～14:40 | 10分 | | 14:40～15:20 | 15時30分 |
| | | ※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。 | | | | | | | |
| | 本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。 | 6月 | 7月 | | 8月 | | 9月 | | |
| 16日 | | 20日 | | 19日 | | 18日 | | | |
| 10月 | | 11月 | | 12月 | | 1月 | | | |
| 20日 | | 18日 | | 18日 | | 18日 | | | |
| ※平日の実施可能日数目安をご記載ください。 | | | 計 | | 147日 | | | | |

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)



←体育館に舞台を設置した時のイメージ。
(スクリーンも設置)



↑能「土蜘蛛」の様子(過去の当該事業にて)↓



↑狂言「盆山」の様子(過去の当該事業にて)↓

※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡易図面」を記載してください。



↑舞台で演能している場面に該当するマンガを暗幕前に設置するスクリーンで同時に投影し、低学年にもわかりやすくする。(例:土蜘蛛退治の場面)

| | | | | | |
|---------------|--------------------|------|------|----------|--|
| 著作権、上演権等の許諾状況 | 各種上演権、使用权等の許諾手続の要否 | | 該当なし | 該当コンテンツ名 | |
| | 該当事項がある場合 | 権利者名 | | 許諾確認状況 | |

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

あり

【公演団体名

皐風会

】

ワークショップの
ねらい

■オリジナルキャラクター「にゃんあみ」が能楽をナビゲート。映像とマンガを活用して小1でもわかりやすい内容に。能面と能舞台のペーパークラフトで理解を深める。能楽師との共演も。「学んで、作って、演じてみる。」

ワークショップも「能」と「狂言」の両方を実施。

■多くの生徒が「よく知らない」「難しそう」と思っているであろう「能楽の世界」に対する壁を取りはらい、「能楽に興味を持ってもらうプログラム」を目指した。小学校低学年でも解り、中学生でも興味を持ってもらえるよう、内容と構成に細心した。

・オリジナルキャラクター「にゃんあみ」を「テキスト」と「映像」のナビゲーターとして共通して登場させ、解説者である能楽師（講師）と掛け合いをする。

・能のあらすじ紹介にはマンガを作成しテキストに導入した。

■生徒全員が「謡（うたい）」や能独特の身体の動き「構え」「運び」身体を使って能楽を体感でき、参加できる構成とした。役者との共演も体験してもらう。

・「土蜘蛛との戦いの場面の再現」など、代表者の生徒と児童が能楽師と共演する。

・公演当日に能楽師と共演するため、「土蜘蛛の精」の謡を全員で謡って学ぶ。当日は、スクリーンに映る詞章をみながら、作り物から登場した土蜘蛛の精と共に謡を謡い共演できるようにする。

■「能面のペーパークラフト（本物の能面からプロの方に頼んで、展開図を作成）」を小学生を対象に配布。作成すると能面体験ができる。一方で、プラモデル感覚で作成する能楽堂のペーパークラフトを中学生を対象に配布。その構造の理解を深める。

■自らの想像力を働かせて「見えないものを見ながら、能・狂言を観ること」の、楽しさ、素晴らしさを解説し伝えるよい機会としたい。

■様々な「発見」を促す内容が、日本の言葉、歴史、伝説、美術、音楽等の学習に興味を広げればと考えている。

→様々な「気づき」を促すワークショップの内容によって、構えることなく本公演を楽しみにして鑑賞してもらいたい。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

会場の入場可能人数。1000人が過去最大。

■事前ワークショップは「能の体験」＋公演当日のワークショップは「狂言の体験」。

※能楽師がオリジナルテキストにそって能楽を解りやすく解説する。オリジナルキャラクター「にゃんあみ」を「テキスト」と「動画・能楽堂案内」のナビゲーターとして登場させ、興味を持ってもらう。

■事前ワークショップ「能楽を体験しよう！」において

①ご挨拶（「礼に始まり、礼に終わる」挨拶の大切さについて理解を促す）

②「能」とは（テキストに沿って能の基本的なお話）

③動画「にゃんあみによる能楽堂案内」（会場の能楽師と掛け合うような構成。新しい試みでもある。）

④参加者全員で「謡（うたい）」を体験（生徒全員）

⑤「構え（姿勢）」「運び（摺り足）」を体験。実技指導を行う。（生徒全員）

⑥鑑賞演目「土蜘蛛」の一部を能楽師とともに演じてみる。

a.鑑賞演目「土蜘蛛」より前場の「怪しい僧と源頼光との戦闘場面（斬り組み）」を体験、実技指導を行い、能楽師と共演（代表生徒）。

b.蜘蛛の糸を投げてみよう（代表生徒）。

c.公演当日に能楽師と共演するため、「土蜘蛛の精」の謡を全員で稽古

⑦能の楽器（四拍子：笛・太鼓・大鼓・小鼓）について体験してみよう（代表生徒4名）

⑧能面に触れてみよう。

a.本物の能面をかけて摺り足を体験してもらう（代表生徒）

b.能面を付けた時の視野の狭さを体験（生徒全員）。

c.本物の能面を近くで披露。角度によって異なった表情を見せる、能面の不思議な魅力を実際に紹介

d.かんたんペーパークラフトに挑戦（生徒全員）

能の特徴の一つである能面をペーパークラフトで作成（事前に用紙を郵送し作成してもらって当日持参でも良い）。新しい試みでもある。

⑨質疑応答

⑩ご挨拶

ワークショップ
実施形態及び内容

■「能の体験」の様子



↑ 能「土蜘蛛」の戦闘場面を体験してみよう



↑ 本物の蜘蛛の糸を投げてみよう



↑ 能楽器の四拍子を体験する



↑ 能面を着けてみよう



↑ ⑧の能面に触れてみようの様子

■「狂言の体験の様子



↑ 狂言独自の姿勢や、発声、足の運びなどを体験



↑ 狂言の動き「茸(くさびら)」を体験

■ワークショップのテキストは解りやすく。あらすじはマンガで紹介。

・テキストは全8ページ。公演後も子供たちのそれぞれの手に残るものとして、その後も「音楽」「国語」「社会」「総合学習」の授業などで生かしてほしいという希望もある。また、当初は小学校でも中学校でも同じテキストを使用していたため、中学生には物足りない内容であることを考慮し、小学生用、中学生用でテキストの難易度を変え、適正を考えてそれぞれ作成する事とした。

《内容》

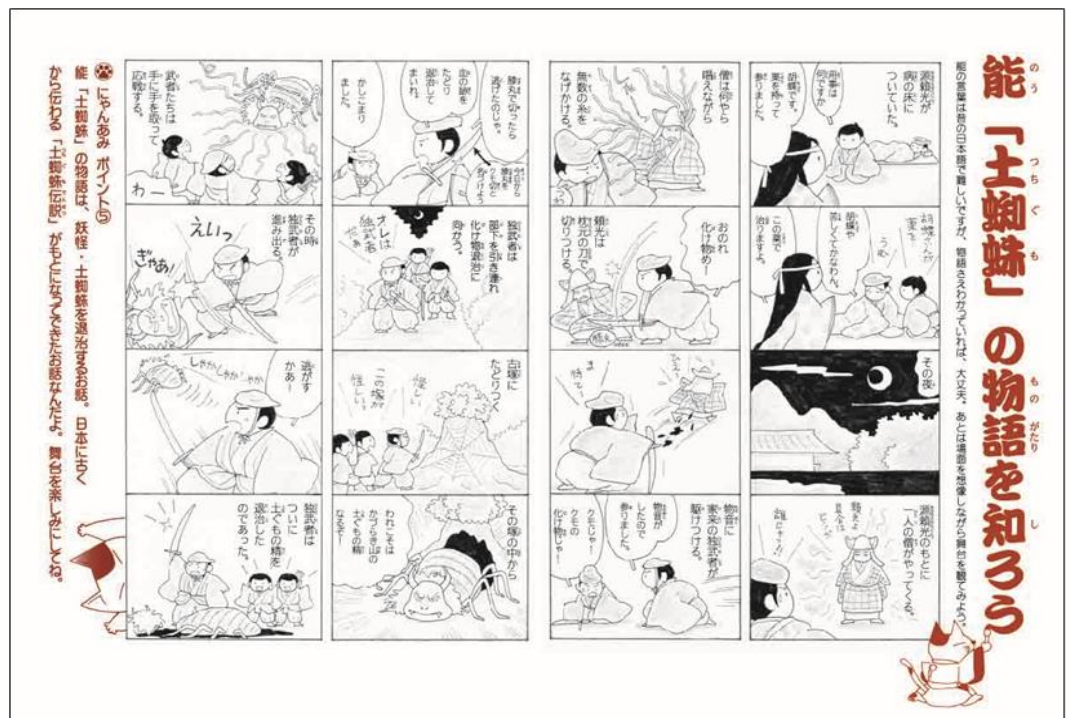
- ・能楽の世界へようこそ
- ・能の音楽に耳を傾けよう
- ・能の装束と面に注目しよう
- ・能「土蜘蛛」の物語を知ろう（マンガで紹介）
- ・謡（ウタイ）をうたってみよう能楽体験してみよう

※「ニャンあみ」という猫のキャラクターがポイントを絞って案内していく構成。ドリル及びクイズ形式で行う。



テキスト表紙↑

その他ワークショップに関する特記事項等



↑テキスト中、あらすじのマンガ

「NO.3別添」に続きます。

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

| | |
|----|----|
| 別添 | なし |
|----|----|

【公演団体名 阜風会 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。
・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

| | | | | | | | |
|-----------------|--|-------|-----------------------|-------------|-------|------|-----|
| (必須) | 公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。 | | | | | | |
| 会場の設置階の制限 | | 条件なし | | 主幹引き込み電源容量 | | 条件なし | A以上 |
| 舞台設置面積 | 間口 | 条件なし | m | 奥行 | 条件なし | m | |
| | 高さ | 条件なし | m | | | | |
| 舞台設置場所 | フロア対応 | 可 | | 学校のステージでの対応 | | 可 | |
| 搬入間口の広さ | 幅 | 条件なし | m | 高さ | 条件なし | m | |
| 遮光の要否 | 遮光要件なし | | 緞帳の要否 | | | | |
| ピアノの使用について | 使用しない | | ピアノを使用する場合の設置位置の指定 | | | 条件なし | |
| | | | ピアノを使用しない場合の移動の要否 | | | 条件なし | |
| 搬入車両(トラック等)の横づけ | 応相談 | | トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離 | | | 条件なし | m以内 |
| 搬入車両の種類 | ハイエース | | 台数 | 1 台 | | | |
| 搬入車両の大きさ | 車幅 | 1.695 | m | 車長 | 4.965 | m | |
| 備考 | 生徒の人数により、舞台はステージまたはフロアに設営。舞台の場合、鏡板を吊るバトンがあると有難いです。ステージ上にピアノがある場合は、向かって右側、上手側に移動して頂けると助かります。下手の舞台袖は出入りの幕を設置するため、荷物が無い方が有難いです。 | | | | | | |

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

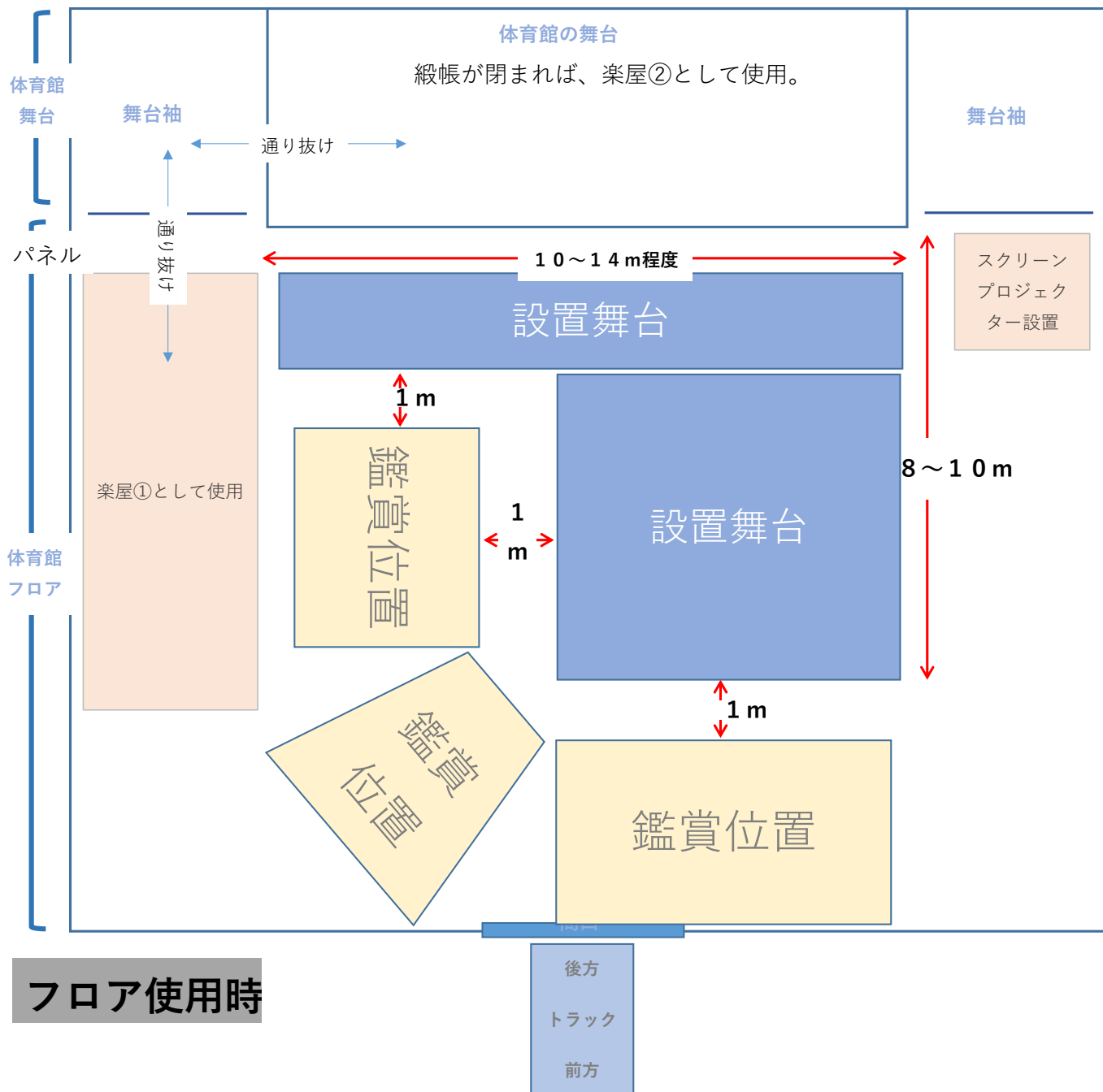
学校からの情報

| | | |
|-----------------------------------|---|--|
| (任意) | 学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。 | |
| 会場図面の提出要否 | 不要 | |
| その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等) | 体育館など舞台を設置する会場のある階数 ※事前の情報としてあった方が良いが、なくても良い。何階でも対応可能。 | |

| | | | | | | |
|-------|--|---|---------|-----|----|----|
| 時間外対応 | (任意) | 万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。 | | | | |
| | なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。 | | | | | |
| | ※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。 | | | | | |
| | | 対象 | 所要時間(分) | 時間帯 | 内容 | 備考 |
| | ワークショップ | | | | | |
| | ワークショップ | | | | | |
| 本公演 | | | | | | |
| | | | | | | |

| | | | |
|--------|------|---|--|
| 個別確認事項 | (任意) | 上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。 | |
| | | 個別ヒアリング事項 | |
| | 1 | 体育館近くに、囃子方控室があるとよい。(楽器を調えるため) | |
| | 2 | 生徒の人数が多い場合、舞台をステージに設営することも可能。ただし、体育館左側、楽屋①のスペースは必要。 | |
| | 3 | | |

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。



別添

あり

【公演団体名

阜風会

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

「難しい能楽」を「興味深々になる能楽」に。「能楽の魅力」をしっかりと伝え、あとは子供を信じてそれぞれの心に委ねる。それが子供たちの心に芸術の「種」を蒔くこと。「芸術の力」を信じる心の芽生えになる。

能楽は世界もその価値を認める日本の誇る伝統芸能であるが、「鑑賞した事のない」という邦人が多く、「工夫した」能楽の普及・振興が求められているのが現状である。そうした中、子供たちの心に芸術の「種」を蒔き、次世代への普及に努めてその「鑑賞者」と「後継者」の育成を図ることが求められている。能楽に触れた子が親となり、祖父母になるまで「サイクル」が構築されるような活動を根気強くコツコツと継続的に行っていく事が伝統を紡ぐと考えている。この事業に真摯に取り組み、子供たちにとって「難しい能楽」を「興味津々な能楽」にすることを目指し、その魅力を熱意を持って伝えたい。その上で子供たちの心を信じ、感性を信じ、委ねる。それが「芸術の力」を信じることでできる心の芽生えに繋がればと思っている。自らが住む日本という国をそしてその文化を大切に思う心が育まれることこそ、グローバルでボーダレスな社会においてアイデンティティを持った人材として活躍の場が広がると考えている。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

「能+狂言=能楽」を「知る、観る、解る」。にゃんあみ、マンガ、ペーパークラフト、演者との共演で多角的にアプローチ。事業の効果を最大限に

(能+狂言)の二つの異なる演劇をもって「能楽」とする、その魅力を伝えるために、ワークショップの構成と公演の内容、当日プログラム、ワークショップテキストの内容を精査し、多角的にアプローチを行い、子供たちの興味と理解度を高めるよう努める。

■親しみを持ってもらうために、オリジナルキャラクター「にゃんあみ」をワークショップテキストや動画に登場させてナビゲーターとする。

■能面や能楽堂の「ペーパークラフト」を配布し、各自それぞれの作成。能面の視野を体験したり能楽堂の構造への興味を促す。

■ストーリーの理解にオリジナルのまんがを作成。舞台袖にプロジェクターを置き、舞台と呼応するコマを投影させる

■本公演の当日プログラムにおいてもにゃんあみを登場させ、クイズなどでポイントをまとめる。能の各場面をイラストで解りやすく紹介。《※詳細は「No.5別添」へ》

【学校との連絡調整について】

連絡は密に。先生用テキストを無料配布。舞台設営・撤去は短時間に。

■この事業に携わる学校または担当者は初めての事が多いので、丁寧な説明と密な連絡を心がけている。電話での口頭だけではなく、連絡事項は分かりやすく書面にまとめ、チェックリストなども作成し、メールか郵送する。学校側の負担を減らす工夫を行っている。

■事前の指導などに活用できるよう、先生用のテキスト「能楽の手引き」を事前に無償配布《※詳細は「No.5別添」へ》、事前の質問にも回答する。

■「公演後は早急に体育館を使用したい。」という意向を持つ学校が多い。当会では体育館での能舞台設営及び撤去にかかる時間は30分～40分程度で行う事が可能である。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

小学生用と中学生用のWSテキストを2種類作成(1種類の作成費にて)。小学1年生にも中学生にも、支援学校でも、興味が広がる内容に。

■オリジナルキャラクター「にゃんあみ」が能楽をナビゲートする構成にし、映像とマンガを活用して小学校1年生でも解りやすい内容になるよう細心した。一方で、当初は小学校でも中学校でも同じテキストを使用していたが、小学生用、中学生用でテキストの難易度を変え、適正を考えてそれぞれ作成する事とした。ペーパークラフトも小学生用は「能面」と中学生用は「能舞台」と2種を用意。参加者の年齢に応じて対応し、事前授業での使用の希望も応じる。

■特別支援学校で実施する場合は学校側の要望をしっかりと聞く。ワークショップテキストを展示におこす。それぞれの子供たちに寄り添いながら、熱意を持って伝える。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

事業の公演を「種」として新しい発見を。実施後も細やかに対応する。

■ある学校に乞われて、再度無料でワークショップに伺った。その後も何年にか1度伺っている。その度に子供達の新たな疑問に沿うことができない有意義な活動と思っている。「気づき」を促す内容が、日本の言葉、歴史、伝説、美術、音楽等の学習に興味広がるようだ。先生がおっしゃるには「能を知る」ということによって、様々な事柄に対して視野が広がり、見方が変わり新たな発見に繋がるという。「継続は力」だと実感している。

■質問や疑問があれば実施後も丁寧に対応する。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

■親しみを持ってもらうよう、オリジナルキャラクター「にゃんあみ」がテキストと動画に登場し能楽師と共にワークショップをナビゲートする。



↑動画に登場



↑オリジナルキャラクター「にゃんあみ」

↑ワークショップテキストに登場

■能面(小学生用)や能舞台(中学生用)のペーパークラフトを作ってもらおう。

※1年生でも作れるように、親しみを持てるように、にゃんあみを入れて紙面をデザインした。

※事前学習のツールとしても有用と考える。

※切り取り線を制作順に色分けする。

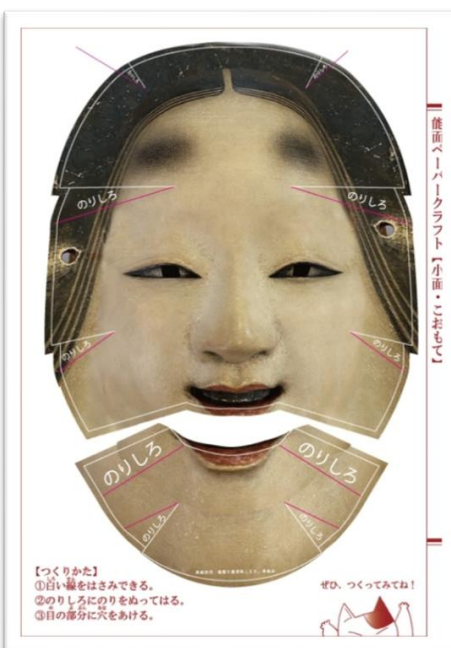
※のりしろを大きく明記し、作りやすく。

※試しとして何人かの小学1年生の子どもに制作させてみたところ所用時間は約15分。

※中学生には、能舞台のペーパークラフト作成に挑戦してもらおう。

※能舞台のペーパークラフトは立案が済み、制作中。

その他ワークショップに関する突起事項



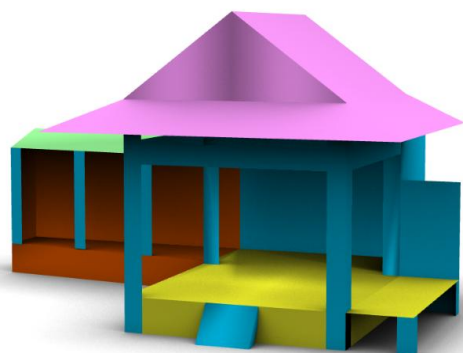
能面クラフト用紙(A4)



↑作成のようす



↑実際につけてみる



↑能楽堂のペーパークラフト(現在試作中)

■《工夫について①》当日プログラムの内容。

※A3二つ折りサイズ。カラー版
(学校に配布するデータは、原則により白黒版)

《内容》

- ・いよいよ能楽を鑑賞します
- ・能「土蜘蛛」の流れを予習

※ページ構成をワークショップのテキストと同じにすることで、「ワークショップと本公演」の継続性を表現。漫画ではないが、舞台の進行を一コマずつ絵で解りやすく解説。
※学校で配布するものは、文化庁の規定に拠り白黒刷となる。



事業を適切かつ円滑に
行うための工夫

■《工夫について②》無償で配布する先生方用のテキスト

子供たちの最も近くにいる教員が、能楽を「全く知らない」もしくは「興味を持ったことがない」のでは、目には見えないが、事業の効果も広がらないと考える。「手引き」はそれを改善するための一助になればと考えている。実際、当会が実施した過去の事業において配布した、「先生方のための能楽の手引き」は各年度種々好評で、嬉しい感想を多数頂いている。

・何校かは「手引き」をもとに先生方で話し合い、ワークショップ開催以前に、子どもたちに能楽の話をする機会を作ることが出来たという。そして公演の日には子どもたちが自ら「能楽」について調べ、紙面に書いてまとめたものが廊下いっぱいに掲示されていた。また何校かの図書室には「能・狂言コーナー」が設けられ、関係図書が揃えられていた。ある学校では6年生の卒業制作は「能面」。展示されている秀逸な作品に驚いた。事業を実施する上で、このような積極的な取り組みをして頂いた数々の学校があったことは、当会としても喜びであり、励みであり、今後の指針になった。円滑に、効果的に事業を行うために、真摯に学校と向き合うことが大切だと思った。この事業が担っているのは、子どもたちの視野を広げ、心を育てる事なのだと再確認することができた。

→「先生方のための能楽入門」

※A4冊子・カラー版。全8ページ(表紙・裏表紙を含む)

- ・能楽の歴史
- ・能楽堂、能舞台について
- ・能のプログラム(番組構成)とその見方について
- ・能「土蜘蛛」のストーリー展開
- ・能楽囃子について
- ・能面・能装束について
- ・日本各地に残る「土蜘蛛伝説」を知ろう
- ・能「土蜘蛛」の舞台を知る



表紙→